

〔3月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

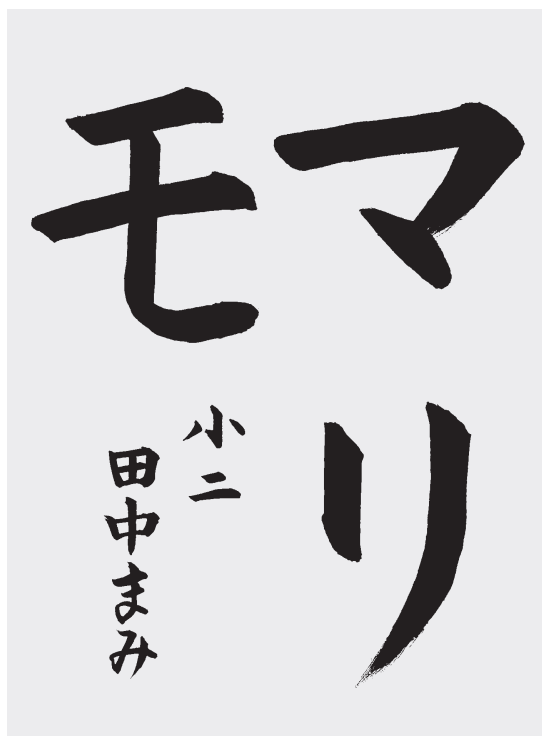


橋本玉扇先生

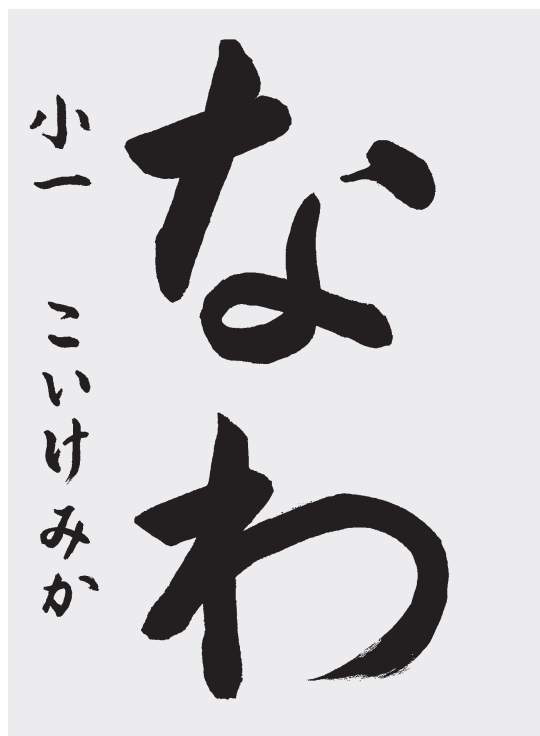
幼・小学1年参考手本



北村白琉先生



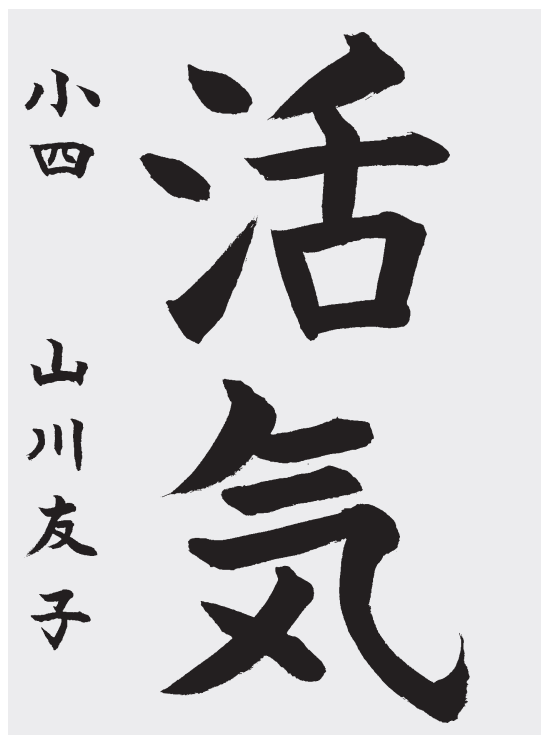
山口仙草先生



一谷春窓先生

〔3月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年参考手本



後藤大峰先生



佐藤菜扇先生

小学3年参考手本



大町青蓮先生



大平邑峰先生

〔3月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年参考手本

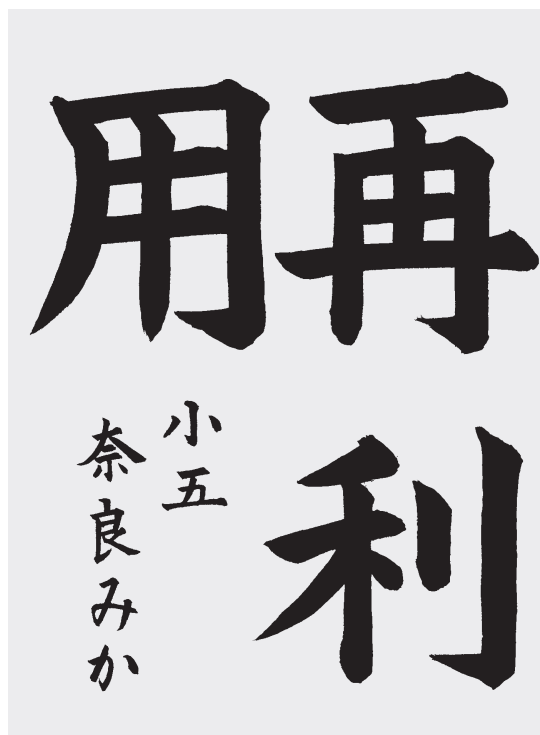


三浦鄭街先生

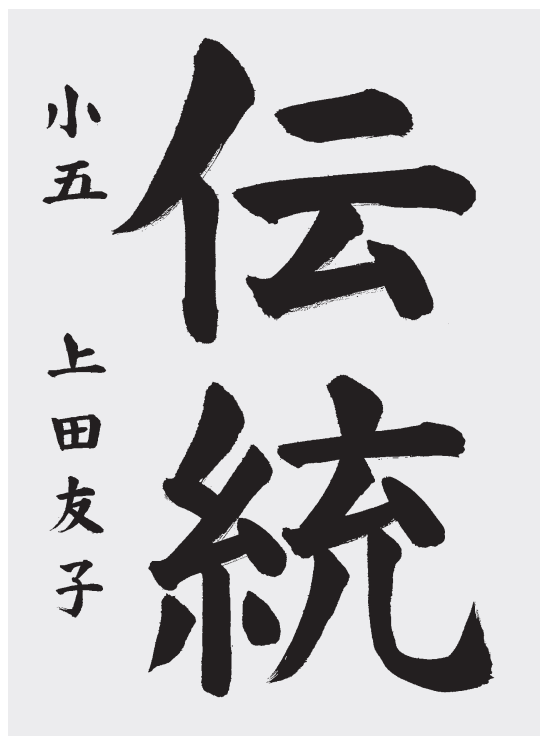


小竹石雲先生

小学5年参考手本



広瀬舟雲先生



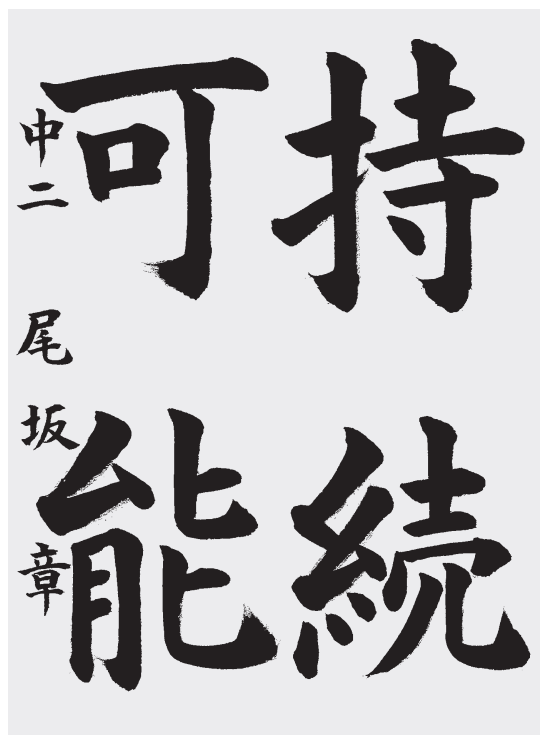
田村鄭雲先生

〔3月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）

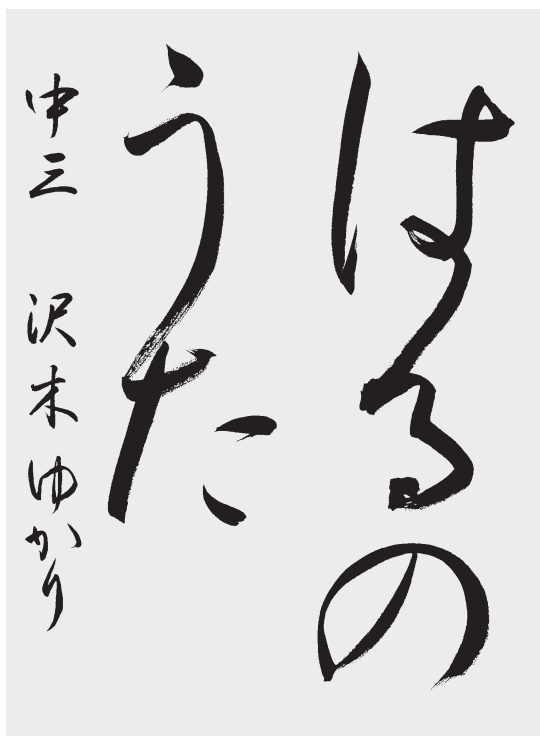


佐藤希雲先生

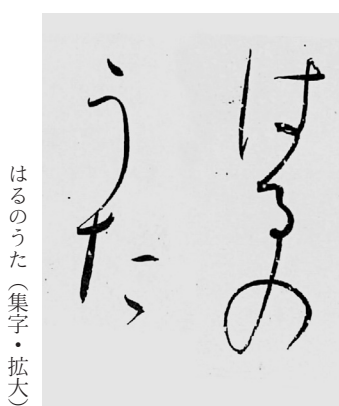


名越蒼竹先生

「高野切」は平安時代の仮名の代表的な作品で、昔から多くの人が学んできた、親しみやすい書です。繊細で流れるような美しさが特徴です。



石井明子先生



はるのうた（集字・拡大）

高野切第三種
（平安時代・十一世紀中頃）
伝・紀貫之

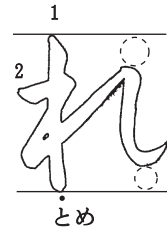
●有名な古典の名跡に挑戦してみよう

発展〔中学生〕

毛筆参考手本解説(1)

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましよう。
ゴシック体(ヨ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

1年

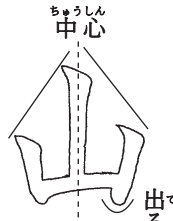


れれれれ
れ(ヨ)れ(明)
れ(教)

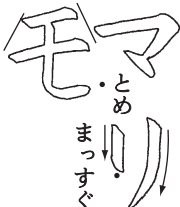


なななな
な(ヨ)な(明)な(和)な(わ)
な(教)

2年

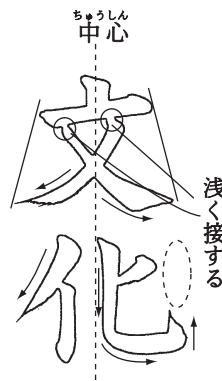


山山山
山(ヨ)山(明)
山(教)



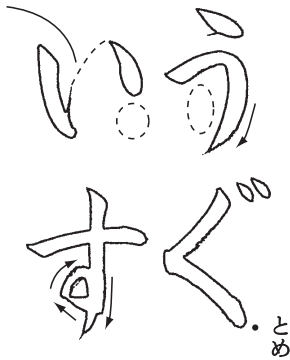
マリモ(ヨ)
マリモ(明)
マリモ(教)

3年



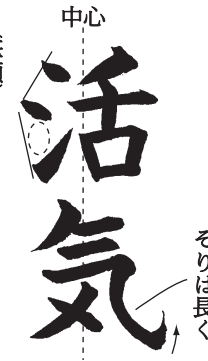
文化(ヨ)文化(明)文化(教)

文化(筆順)
・エウ文
・イイ化



うぐいす(ヨ)
うぐいす(明)
うぐいす(教)

4年



活気(ヨ)活気(明)活気(教)

活気(筆順)
・シシ汗汗活
・ハハ気気気
活気(ヨ)活気(明)活気(教)



竹馬(ヨ)竹馬(明)竹馬(教)

竹馬(筆順)
・ノムイヤ竹
・一丁戸馬馬馬
竹馬(ヨ)竹馬(明)竹馬(教)

5年



再用(ヨ)再用(明)再用(教)

再用(筆順)
・一丁戸戸再用
・ニ千禾禾利
・月月月用
再用(ヨ)再用(明)再用(教)



伝統(ヨ)伝統(明)伝統(教)

伝統(筆順)
・ノイ仁仁伝伝
・糸糸紬紬紬
伝統(ヨ)伝統(明)伝統(教)

6
年

中学

中心
 1
 2
 3
 将来

筆順

一斗一斗将来
一口五斗将来

将来(ゴ) 将来(明) 将来(教)

写卒
真業

等間かく

筆順

十市直真
一写写

卒業写真(コ) 卒業写真(明)

可持
能統

※手本は許容で書いています。

〔筆順〕

一丁口口可

ム
育育^ニ
育能

持續可能(教)

やさしい行書

春日風

筆順の変化

筆順

三
尹
夫
表
春
春
一
凡
同
風
風

発展

「高野切第三種」

うたの

筆脈に気をつけて
リズムカルに書きましよう。

はるの

連綿
「る」はやや小さく

連綿

のびやかに
つなげる気持ち

つなげる気持ち

ひらがなの字源

(400)

は	る	の	う	た	字源 字 形
波 は は は	留 る る る	乃 乃 乃 の	宇 宇 う う	太 た た た	

※ 字源については、異字体から変遷したものに*印を付して()にその字体を記した。

※ 字形は古筆から抽出した。上段には字源に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

※字形は古筆から抽出した。上段には字源に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

〔3月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小 学 2 年

幼・小 学 1 年

支 部 名					
段・級					
学 年					
名 前					
	た	こ	こ	は	
	め	こ	こ	は	
	の			花	
	場			を	
	し			う	
	よ			え	
	で			る	
	す				
	。				

ちゅうしん
中心
場

日は小さくして左右をあげる
〈ひつじゅん〉
土垣垣場場
場(3) 場明 場(教)

ちゅうしん
中心
を

を(3)を明(を)教
遠(を)を
〈じげん〉

ちゅうしん
中心
花

一ナナナナ花
花(3) 花明 花(教)
〈ひつじゅん〉
〈じげん〉

かんじの形をよく見て書きましょう。

支 部 名					
だん・きゅう					
がくねん					
な ま え					
	た	か			
	い	き			
	せ	じ			
	つ	ゆ			
	で	ん			
	す	は			
	。				

ちゅうしん
中心
せ

せ(3) せ明 せ(教)
とめる

ちゅうしん
中心
ん

のびやかにはらう
ん(3) ん明 ん(教)

ちゅうしん
中心
か

か(3) か明 か(教)
あける

かたちをよくみて、ていねいにかきましょう。

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましょう。ゴシック体(ゴ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

硬 筆 参 考 手 本

〔3月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小 学 4 年

小 学 3 年

支 部 名				
段 ・ 級				
学 年	四			
名 前	長谷部 海			

分	る	博
か	と	物
り	い	館
ま	ろ	な
す	い	ど
。	ろ	を
	な	見
	こ	学
	と	す
	が	

支 部 名				
段 ・ 級				
学 年	三			
名 前	市川 青空			

な	雪
が	ど
れ	け
出	水
し	が
ま	谷
し	川
た	に
。	

館

とめ

〈筆順〉
 今 食 館 館 館
 館 館 館 館 館

物

とめ

〈筆順〉
 ノ 牛 物 物
 物 物 物 物 物

博

点の位置に注意

〈筆順〉
 十 十 十 十 十 博
 博 博 博 博 博

「へん」と「つくり」の組みあわせに気を付けて書きましょう。

所

〈筆順〉

川 川 川 川 川
 川 川 川 川 川

谷

はらう

〈筆順〉
 谷 谷 谷 谷 谷

雪

とめ

〈筆順〉
 二 千 雪 雪 雪
 雪 雪 雪 雪 雪

漢字は正しく書きましょう。

四つの点の書き方に注意

〔3月9日締切課題〕

作品に「**学年**」と自分の「**氏名**」を本人が書く。

小学 6 年

小学 5 年

[illegible]

支 部 名	し	着	ま
	に	こ	だ
段 ・ 級	は	ん	寒
	春	で	く
学 年	の	い	、
五	香	た	コ
名 前	り	が	ー
水	が	、	ト
野	し	日	を
玉	た	差	
実	。		

筆順にしたがって正しく整えて書きましょう。


 日の左右の縦部は垂直に
 〈筆順〉
 三 厶 夫 夫 春 春

筆順に気をつけて、文字の形を整えましょう。

左右の払いを一对で最大幅に
二つの点は中心をそろえる

《筆順》

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

寒

寒

二つのたて画の始筆の位置に注意
横にあまり広げない

〔筆順〕
一 廿 廿 其 基

〔基〕 基(明) 基(教)

点の位置に注意
 〈筆順〉
 言言言言計討
 左右のはらいの長さや角度
 〈筆順〉
 言言言言論
 論言論明論教
 討明
 討教

〔3月9日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中 学 生 (行 書)

支 部 名	
段 ・ 級	
学 年	中一
名 前	米津 愛

「我田引水」とは我が田に水を引く。転じて、自分の都合のよいようにすることである。

中 学 生 (楷 書)

支 部 名	
段 ・ 級	
学 年	中一
名 前	米津 愛

「我田引水」とは我が田に水を引く。転じて、自分の都合のよいようにすることである。

やさしい行書

※漢字かな交じりの文章はかなをやや小さく書く。

(楷書)

都合のよい

(行書)

都合のよい

行書にあわせて「かな」を書く

字の中心がゆがまないように書きましょう。

中心

我田引水

中心

自分の都合

我

そりは中心から右下へ長く伸ばす
(筆順)

ノニ千手我我我

これからの作品締切日と課題

令和7年4月号～9月号までの作品締切日と毛筆課題

中学生 (全学年共通)		小6	小5	小4	小3	小2	幼・小1	締切日	
花盛りの庭	物語	友情	流星	マス目	牛	くも	つ	4月6日	4月
すみれそう	明鏡止水	田植え	竹の子	台形	十日	ことり	いろ	5月6日	5月
クラブ活動	感激	効果	町の形	天体	うえ木	ほん	て	6月8日	6月
ふじなみ	純真な心	ポイント	連休	ふれあい	友人	さつき	こと	7月6日	7月
明日を探る	地層	熱気	共同	育てる	花	つばさ	け	8月3日	8月
ふつりん	北斗七星	海開き	雨宿り	土地	ふる里	えのぐ	てつ	9月7日	9月
砂浜を歩く	適切	健康	白い波	パンダ	人口	はいく	の	青蛙 おのれもペンキ ぬりたてか	
おみこし	宇宙遊泳	文化財	林間	七色	つり糸	さんご	あめ		
波打ち際	湖畔	道路	思いやり	寺院	青	こかげ	ろ	三筆	
異口同音	大空の旅	海底	美しい	中心	ハム	にじ	ま		
遣唐使	美術	列車	平行	月見	やさい	おんぷ	ふえ	くさの はな	
無我夢中	くりの実	読む	虫のこえ	光る					

4月号の硬筆課題 ※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

幼・小1

たい	あ
い	か
よう	る
	い

小 2

を	竹
出	の
し	子
た	が
。	五
	本
	か
	お

小 3

公	大
園	な
で	わ
し	と
ま	び
し	を
た	三
。	角

小 4

を	く	身
向	、	の
け	少	回
て	し	り
み	広	だ
よ	い	け
う	世	で
	界	は
	に	な
	目	

小 5

を	湖	太
て	に	陽
ら	面	が
し	した	高
て	た	く
い	林	の
る	の	ぼ
	上	り
	の	
	雲	

小 6

記	年	小
録	。	学
を	思	生
作	い	と
り	出	し
たい	に	て
	残	最
	る	後
	学	の
	習	

中学生

と	一
す	つ
る	の
夢	星
は	の
異	輝
な	き
	が
	違
	う
	よ

書写を知り 学び楽しむ



広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武蔵野大学教育学部教育学科・教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、(公財)書道芸術院評議員です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「国語科書写の理論と実践」などがあります。

第96回 石碑建立物語5

庵治の採石場の「大丁場」おおちようばは、庵治石で最も良い細目こめの石が採れるところである。山麓の入り口には、無断での侵入者を防ぐとても大きなシャッターがあり、まず驚く。これをくぐり、かなり急斜面な道を車でのぼり案内していただいた。

大丁場は、江戸時代は高松藩御用丁場ごようちやうばとして栄えた。廃藩置県の時、明治政府への没収を恐れて、家老であった大久保氏に譲り、今日に至るという。昔は原石の採掘から加工作業まで同じ石工が行っていたが、明治になると分業化が進み、採石は「丁場師」、加工は「仕立師」という加工石屋が行うことになったという。大丁場の採石は、現在、太田さんの会社が受け継ぎ、三代にわたって掘削して原石を掘り出しているという。現在の大丁場は、山の斜面を頂部から掘り進み、かなり広いすり鉢状になっているが、はるか昔から現在までに掘り出した原石の量は埋蔵量のまだ3割ほどで、7割の原石はまだ地中深くに眠っているとのことであった。崖の壁面の掘削痕をよくみると、用いた掘削方法の違いからどこまでを初代・二代目が刻したのか判る。現在は重機を用いて下へ下へと掘っているという。ここで私たちの記念碑制作のためにキープしてくださったという大きな一つの実石を見せていただいた。なんと庵治石を愛する両者の多大なるご厚意によって「細目」の石にしてくださいだったのであった。

① 大丁場から採掘し大割りした原石のときに今回の碑石として使える大きさの石が選別する。

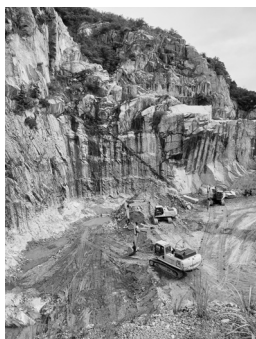
② 次に麓の大川社長の工場に運び、工場の巨大な

特殊の丸鋸を用いて記念碑の大きさにきちんと切断(小割り)して注文通りの形に切る(切削)表面を磨き(研磨)、亀裂や傷などがないか検査をして、ようやく使える石かどうかかわかるという。

大きな原石を切り出せたとしても本当に適した石材なのか見極めるまでにかんがりの工程が必要だったことが判った。この①②の過程を順次施してくださった原石は、私の知る限り3つほどある。これらの作業は最良の石で制作して下さろう、庵治石を愛し、すこしでも良いものを作り残したいと考える職人魂の表れであり、産地の人の結びつきの深さによりできたことなので庵治の里の老舗の石材店にお願いしてとても良かったと思った。そしてこの意気込みの深さに感謝の気持ちでいっぱいであった。

完成した石碑本体の重さが3トンということとは、原石は少なくとも4トン近くはあったのではないかと思う。大型の運搬車を用いて大川社長の加工工場まで運ぶのだが、山の凸凹な急斜面の坂道の運搬はバランスを崩すと車ごと転倒する危険をはらむのでとても大変であったという。(つづく)

▲庵治石の「大丁場」



▲「採掘された候補の原石」

今月のホープ



小六 助田清花（成東）

紙面一杯に堂々とした筆致で収め、余白が実に美しいです。これは用筆と共に字形の正確な把握が成せる技です。



小一 小保内勇翔（黒沢書の教室）

しっかりとした筆運びで伸び伸びとした作品です。字形も見事で名前まで集中して佳く書けています。

支部名	飛山
段・級	
学 年	中二
氏 名	目黒有希

「スノーモンスタ―」とも呼ばれる蔵王の樹氷。その幻想的な景色が冬の連峰に広がります。

中二 目黒有希（飛山）

丁寧なペン書きで美しいです。リズム良く名前まで一貫して書いた素晴らしい作品です。

支部名	光峰
段・級	
学 年	三
名 前	山下華世

新かん線は時そく
三百キロで走る。

小三 山下華世（光峰）

気持ち大きく、筆圧、自然で、字形も見事な堂々とした美しい作品になりました。

前回展の写真
第75回記念 全国学生書道展

(表彰式)



(会場風景)



(席上揮毫)



編集余録

○第76回全国学生書道展が令和7年2月5日から11日まで上野の東京都美術館で書道芸術院展と併催で開催されます。皆さんを指導して下さっている先生方の指導者展も同じ会場で開催します。今月号に団体賞と個人賞の上位入賞者の名簿を掲載しました。ぜひ会場に足を運んでみてください。

○令和6年度の課題は今月号(3月号)で終了いたします。今月号までは現在の学年の課題を書いてください。来月号(4月号)からは令和7年度の課題になりますので、新学年の課題を書いてください。尚、高校生になる方は、『書道芸術学生版』は卒業となり、大人の競書雑誌『書道芸術』になります。高校では、国語科書写から芸術科書道となり、今まで文字を正しく整えて書くために学習して身につけた能力を、さらに向上させるため、様々な書の表現技法を学んでいきます。大人の『書道芸術』では、漢字や仮名などの古典の臨書や創作、条幅、ペン字、実用書など充実した内容になっています。中学を卒業する皆さん、ぜひ高校生になっても書道を続けて、大人の『書道芸術』に出品して、幅広く書を学んでください。

(悠輝)